

函館市医療・介護連携推進協議会 令和5年度第1回会議 会議録

■ 日 時

令和5年11月27日（月） 19:00～20:00

■ 場 所

函館市役所8階 大会議室（東雲町4番13号）

■ 議 事

○報告事項

- （1）令和4年度函館市医療・介護連携支援センターの業務報告について
- （2）函館市医療・介護連携支援センターの活動報告について

○協議事項

- （1）はこだて医療・介護連携サマリーへの応用ツール^⑱の追加および「もしもノートはこだて」の活用について

■ 配布資料

- 1 業務報告
- 2 情報共有ツール作業部会関係資料
- 3 多職種連携研修作業部会関係資料
- 4 連携ルール作業部会関係資料
- 5 その他
- 6 協議事項関係資料

当日配布 函館市医師会在宅医療医会 会則

■ 出席顧問・委員（16名）

大原顧問，岩井顧問，熊川顧問，久保田委員，高見委員，水越委員，北村委員，岡田委員，亀谷委員，阿部委員，渡部委員，常野委員，吉荒委員，保坂委員，齋藤委員，佐藤委員

■ 欠席顧問・委員（1名）

氏家顧問

■ オブザーバー

函館市医師会事務局，函館薬剤師会事務局，北斗市，渡島総合振興局

■ 事務局

（函館市）

原保健福祉部次長

市立函館保健所）山田所長，小林次長

地域包括ケア推進課）小棚木課長，渡辺主査，根崎

(函館市医療・介護連携支援センター)

佐藤係長，近藤氏，花輪氏

(函館市医師会病院)

野田事務部長，京野事業部長，加藤医療・介護連携課長

■ 会議の内容

小棚木地域包括ケア推進課長

ただいまから，函館市医療・介護連携推進協議会の令和5年度第1回会議を開催いたします。本日は，病院局の氏家顧問が所用により欠席されております。前回の会議でも確認いたしておりますが，この会議は原則公開により行いますので，ご了承願います。

前回の令和4年度第2回会議の会議録についてですが，事前に会議参加者の皆様にご確認をさせていただき，市のホームページ上で公開させていただいております。

次に，本日の資料を確認させていただきます。机上には，名簿と座席表，当日配布資料の「函館市在宅医療医会 会則」をお配りしております。また，事前に会議次第，資料1から6-3までを送付しておりますが，本日お持ちでない方はいらっしゃいますでしょうか。

続きまして，顧問の交代がございましたので，ご紹介させていただきます。今年度から函館市医師会の会長に就任されました，大原 正範（おおはら まさのり）様と，函館歯科医師会の会長に就任されました，岩井 宏之（いわい ひろゆき）様でございます。大原様と岩井様には，簡単で結構ですが，自己紹介のご挨拶を頂戴できればと存じます。大原様，お願いいたします。

大原顧問

4月から医師会長に就任しました，大原 正範と申します。もともとは国立病院の院長でしたので，医療と介護の連携とは遠いところにいましたが，現在勉強中です。よろしく願います。

小棚木地域包括ケア推進課長

大原様，ありがとうございました。続きまして，岩井様，お願いいたします。

岩井顧問

函館歯科医師会の会長交代に伴い，出席させていただきました，岩井と申します。道南圏域の在宅歯科医療連携室の会議等で大変お世話になっております。今後ともよろしく願います。

小棚木地域包括ケア推進課長

岩井様，ありがとうございました。

次に，委員の交代がございましたので，ご紹介させていただきます。今年度から函館歯科医師会の副会長に就任されました，高見 浩（たかみ ひろし）様と，函館市訪問リハビリテーション連絡協議会の会長に就任されました，吉荒 龍哉（よしあら たつや）様です。高見様と吉荒様には，簡単で結構ですが，自己紹介のご挨拶を頂戴できればと存じます。高見様，お願いいたします。

高見委員

今年の6月から函館歯科医師会の副会長に就任しました、高見 浩と申します。谷地頭町で歯科を30年ほどやっております。この度、初めて出席させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

小棚木地域包括ケア推進課長

高見様，ありがとうございます。続きまして，吉荒様，お願いいたします。

吉荒委員

函館市訪問リハビリテーション連絡協議会の会長を務めております，吉荒と申します。普段は，老健のケンゆのかわで，理学療法士として勤務しております。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

小棚木地域包括ケア推進課長

吉荒様，ありがとうございます。（※事務局紹介は省略）

本日の会議の議事の進行につきましては，皆様の特段のご配慮とご協力をお願いいたします。それでは会議を進めさせていただきます。進行は，佐藤部長にお願いいたします。

佐藤座長

皆様，こんばんは。改めまして，函館市保健福祉部長の佐藤でございます。

早速ではございますが，次第に従い，議事を進めてまいります。はじめに報告事項（1）「令和4年度函館市医療・介護連携支援センターの業務報告について」に関して，事務局から説明をお願いします。

小棚木地域包括ケア推進課長

※資料1に基づいて説明

佐藤座長

ありがとうございます。ただいま事務局から説明がございました，報告事項（1）の「令和4年度医療・介護連携支援センターの業務報告について」の説明に関し，ご質問やご意見等はございませんか。（なし）

それでは，報告事項（1）「令和4年度函館市医療・介護連携支援センターの業務報告について」の議事は，以上といたします。

続きまして，報告事項（2）の「函館市医療・介護連携支援センターの活動報告について」に関しまして，資料2-1，資料2-2の「情報共有ツール作業部会関係資料」および資料3-1から資料3-4の「多職種連携研修作業部会関係資料」につきまして，医療・介護連携支援センターから説明をお願いします。

佐藤係長（函館市医療・介護連携支援センター）

※資料2-1～2-2 情報共有ツール作業部会関係資料 に基づいて説明

ここで，情報共有ツール作業部会 部会長の亀谷委員に説明を変わり，引き続きサマリーについてご報告いただきます。亀谷委員よろしく申し上げます。

亀谷委員

情報共有ツール作業部会で部会長を務めております、函館中央病院の亀谷です。「はこだて医療・介護連携サマリーの全国展開にむけて」の進捗についてご報告いたします。

今年の3月30日に開催された「函館市医療・介護連携推進協議会 令和4年度第2回会議」に産業医科大学の松田 晋哉教授が出席され、松田先生が進めるプロジェクトである、全国で活用できる共通サマリーの作成に「はこだて医療・介護連携サマリー」が適しているということで、本サマリーを全国標準とするために修正等を行っていききたいという趣旨のご説明をいただき、皆様からご承認いただいたところです。

その後、9月26日に再び松田先生にご来函いただき、高橋肇先生をはじめとする高橋病院の職員さんとツール部会のコアメンバーの保坂さん、松野さん、私、そしてセンターの皆さんとで打ち合わせを行っております。その際の松田先生からのお話では、「医療も介護も、様々な連携等につながる加算要件とサマリーの内容がリンクしていく必要性がある」とご説明いただきました。

どの職種でも使うことができる連携サマリーを、それぞれの加算に対応した形で運用できるようにしていきたいとのことで、この先、加算の算定要件等も踏まえながらサマリーの修正を進めていくこととなっております。また、厚労省の検討委員会等での議論の参考にしたいとのことで、サマリーを活用したこれまでの連携の好事例集を年内に作成し、提示できるよう準備を進めているところです。

松田先生は元々医療雑誌等に執筆の多い先生なのですが、近況報告としては、社会保険旬報という隔週誌に連携サマリーのことを紹介される予定とのことです。その内容を一部ご紹介いたします。「函館市及びその周辺自治体（道南地域）では、限られた医療介護資源を有効に活用して継続的なケアを提供するという目的のため、病院、診療所、訪問看護ステーション、薬局、歯科診療所、入所・在宅介護施設、居宅介護支援事業所、行政など多くの関係者が協力して、医療・介護情報の共有を実務として行ってきた。医療・介護連携サマリー自体はExcelで作成されているが、それをID-Linkという医療・介護情報共有システムの上でも使用している。実務者の視点で作成されているので、サマリーの作成は診療報酬、介護報酬で設定されている連携に関する報酬とリンクしており、情報の重複入力の問題も上手に回避されている。このような運用経験があることも、はこだて医療・介護連携サマリーの大きな強みである」との内容です。

また、各学会や講演会等においても、はこだて医療・介護連携サマリーの有用性について紹介されており、一例では10月23日に開催された、日本病院会の講演でも熱弁いただいたそうで、「医療・介護の連携が必要なこと、そのためのツールとして最も優れているのは、はこだて医療・介護連携サマリーであり、これを一般化することが喫緊の課題である」との内容をお話されていたということでした。このほか、各地でも本サマリーについてご紹介いただいております、様々な地域でこの連携サマリーを採用したいというような話が聞かれていたとのことです。

高橋先生も、医療・介護の代表的な関係団体に所属されており、全日病や日本医師会、全老健等に深く関わっていることから、広く連携サマリーを紹介していただいているということでした。全日病の会長からは、連携サマリーの導入を全日病として進めてほしいとのご依頼があったということです。また、科学的介護情報システム（LIFE）についても、来年度の診療報酬、介護報酬の同時改定に向けて、各項目の見直しを行っているとのことで、その項目が固まった時点でサマリーとの突き合わせを行い、サマリーとLIFEの項目とのリンクも進めていきたいとのお話をいただいております。

松田先生、高橋先生、そしてツール部会のメンバーである岡田先生が、全国でサマリーをご紹介くださっていることから、現在、はこだて医療・介護連携サマリーが全国各地から注目を集めているところです。

石川県立中央病院からは、「地域連携室担当者の会」における講演の依頼を受け、私と保坂さんで対応する予定です。また、熊本県の阿蘇立野病院からも、「在宅サポート支援センターの会」において、サマリーについて説明してほしいという依頼をいただき、今後対応予定です。

その他、医学書院から出版されている「病院」という雑誌から私に執筆依頼があり、「高齢者の入院医療の地域連携の現状と課題」というテーマで、サマリイの紹介をさせていただきました。また、今後の予定としましては、12月1日に松田先生が再び来函され、サマリーを活用した好事例集の作成等を進めていくこととなっております。

以上、はこだて医療・介護連携サマリイの全国展開にむけての進捗についてご報告でございました。

佐藤係長（函館市医療・介護連携支援センター）

亀谷委員、ありがとうございます。

※資料3-1～3-4 多職種連携研修作業部会関係資料 に基づいて説明

佐藤座長

ありがとうございます。報告事項（2）の「函館市医療・介護連携支援センターの活動報告について」のうち、「情報共有ツール作業部会関係」および「多職種連携研修作業部会関係」の説明に関して、ご質問やご意見等がありましたら、よろしく願いいたします。

水越委員

函館薬剤師会の水越です。ご報告ありがとうございます。

1点だけ確認をさせていただきたいのですが、資料2-1のはこだて医療・介護連携サマリイの活用状況の集計結果の二段目にある「上記いいえの理由」のうち、「機会がない」が14%、「その他」が72%となっているのですが、「その他」の内訳が分かれば教えていただきたいです。

また、その下の「今後使用予定」0%、「準備ができていない」0%とありますが、これはどういった意味か教えていただければと思います。

佐藤係長（函館市医療・介護連携支援センター）

ご質問ありがとうございます。まずは「その他」の回答の内訳ですが、一番多い回答が「既存の書式を利用している」というもので、「その他」と回答したうちの47%が「既存の書式を利用している」との理由でした。また、「電子カルテで管理している」、「電子カルテや介護ソフトに入っている書式を利用している」という回答が、12%でした。さらに、「その他」という回答が40%と少し多めではあるのですが、内訳としてはそのようになっております。

また、「今後使用予定」0%、「準備ができていない」0%という部分については、サマリイを使っていない理由を選択式にしておりまして、今回の集計結果では、「今後使用予定」および「準備ができていない」と回答した件数が0件だったということで、

このように0%と掲載させていただいております。

水越委員

ありがとうございます。

佐藤座長

ありがとうございました。その他、本件につきましてご質問等はございますでしょうか。(なし)

ツールの部会につきましては、サマリーが全国的に注目されて、松田先生を中心に全国展開に向けた取り組みが進められているというご報告でした。また、研修の部会につきましては、令和4年度以前はコロナ禍で研修が厳しい部分もあったと思いますが、徐々に対面での研修も再開されて、安心して参加される方が増えているのかなというご報告でした。

続きまして、報告事項(2)のうち、資料4-1から資料4-5の「連携ルール作業部会関係資料」および資料5-1から資料5-5の「その他」につきまして、引き続きセンターから説明をお願いします。

佐藤係長(函館市医療・介護連携支援センター)

※資料4-1～4-5 連携ルール作業部会関係資料

資料5-1～5-5 その他

以上の資料に基づいて説明

佐藤座長

ありがとうございます。報告事項(2)の「函館市医療・介護連携支援センターの活動報告について」のうち、「連携ルール作業部会関係」および「その他」の説明に関して、ご質問やご意見等はございませんか。(なし)

センターにおける各種取り組みについて、詳しくご説明いただきました。それでは、報告事項「函館市医療・介護連携支援センターの活動報告について」の議事は、以上といたします。

続きまして、協議事項(1)の「はこだて医療・介護連携サマリーへの応用ツール[®]の追加および『もしもノートはこだて』の活用について」に関しまして、事務局から説明をお願いします。

小棚木地域包括ケア推進課長

※資料6-1に基づいて説明

また、資料6-2としまして応用ツール[®]、資料6-3としまして「もしもノートはこだて」をお配りしておりますが、これらの内容や、これまでの情報共有ツール作業部会での検討の経過などを、情報共有ツール作業部会・部会長の亀谷委員からご説明をいただきたいと思っております。亀谷委員、よろしく願いいたします。

亀谷委員

※資料6-2, 6-3に基づいて説明

「もしもノート」の普及は、当面の間、医療・介護関係者の管理内にとどめ、ノートだけが独り歩きをしていかないようにしたいと考えております。まずは医療・介護関係

者の皆さんのお手元でご活用いただき、サマリーと同じように活用状況について意見を
集めながら、ブラッシュアップを繰り返していきたいと計画しております。医療・介護
関係者の中で十分に協議を重ね、十分に深化してきたことが確認できたのち、地域住民
の皆様にも広めていきたいと考えております。私からの説明は以上です。

佐藤座長

亀谷委員，ありがとうございます。協議事項（１）の「はこだて医療・介護連携サマ
リーへの応用ツール⑱の追加および『もしもノートはこだて』の活用について」の説明
に関して，ご質問やご意見等はございますでしょうか。

顧問に就任されたばかりで大変恐縮ですが，大原顧問から，何かお気づきの点等があ
ればお願いいたします。

大原顧問

サマリーもとても分かりやすくまとめられているため，ぜひ推進していただきたいと
思います。「もしもノートはこだて」についても，走り出さないと始まらないですので，
１年後などに運用後の経過や，モニタリングの結果を振り返っていただいて，改善すべ
きところはブラッシュアップしていただければと思います。

佐藤座長

ありがとうございます。今後，実際に取り組みを進めていく上での検討ということ
についてもご提案いただきました。他に何かございますでしょうか。（なし）

函館では全国区と比べても高齢化率が高く推移しており，既に３７％を超えそうな状
況です。医療や介護を利用されている方も多いまちですので，今後も取り組みを進めて
いければと思います。ありがとうございます。

それでは，協議事項（１）の「はこだて医療・介護連携サマリーへの応用ツール⑱の
追加および『もしもノートはこだて』の活用について」の議事は，皆様からご承認いた
だけたということで，以上としたいと思います。よろしくお願いいたします。

続きまして，その他（１）の「在宅医療医会について」に関しまして，今年立ち上げ
られた，在宅医療医会で幹事長の役職についておられる岡田委員より，ご説明いただ
ければと思います。岡田委員，お願いいたします。

岡田委員

ありがとうございます。函館市医師会では今年の９月に，在宅医療医会というものを
立ち上げました。その背景としては，先ほどのお話にもありましたとおり，高齢化が進
んでいるということと，在宅医療というものを理解し，希望している市民が増えてきて
いるということ，コロナ禍のため，入院してもご家族に会えないという状況が長く続き，
家で看取りたい，家で介護したいという方が増えてきているということなどが挙げられ
ます。僕も２０年前から在宅医療に取り組んでいますが，やはり，在宅医療の需要が増
えてきているように感じております。

そういう中で，この協議会で色々なルールや仕組みを作っていて，サポートは
していただいているのですが，東京などにあるような医師が１０人，２０人というよう
な在宅専門クリニックは，まだ函館にはない状況です。在宅専門のクリニックは最近増
えてきてはいますが，医師が一人でやられているという状況ですので，２４時間３６５
日の対応はそういうクリニックだけでは厳しいということで，地域の医師が代診をした

り、連携をしたりできる体制を作ろうということを考えております。

また、患者が急変した際の、病院のバックアップ体制ということで、何かあった場合は入院を希望される方もいらっしゃるので、皆で意見を出し合いながら、なるべく持続可能で多くの人を在宅で看れる地域の医療体制を作ろうと考え、医会を立ち上げて、これから議論をしていこうというところです。

しかし、在宅医療は医師だけでできるものではなく、訪問看護師さんを中心に、在宅医療の現場で活躍している多職種を、我々医師がサポートするという逆の立場もあります。そういう方々との研修やフォーラムの開催も、今後予定しています。医療・介護連携支援センターには、これまで以上に、我々をサポートしていただく必要がありますし、函館市を含めて関係の方々にも、サポートをしていただければと思います。在宅医療の場を通して、地域医療に貢献できればと思っておりますので、よろしくお願ひします。

佐藤座長

岡田委員、ありがとうございます。本件に関しまして、補足やご質問等がありますでしょうか。(なし)

在宅医療医会の立ち上げと、地域における在宅医療の体制についてのお考えということで、ご説明いただきました。ありがとうございます。

以上で、本日用意した議題については全て終了いたしました。最後に、全体を通じて、何かご質問等がございましたら、よろしくお願ひいたします。(なし)

よろしいでしょうか。それでは、事務局から何かございましたら、お願ひします。

小棚木地域包括ケア推進課長

はい。次回の協議会についてでございますが、センターの取り組みの進捗状況を確認しつつ、改めて日程等を各委員にお伺ひして、3月頃に開催させていただければと考えておりますので、ご了承願ひします。

佐藤座長

ありがとうございます。次回は3月頃の開催を予定ということでございました。

それでは、以上をもちまして、函館市医療・介護連携推進協議会の令和5年度第1回会議を終了いたします。皆様、長時間にわたり、大変お疲れさまでした。